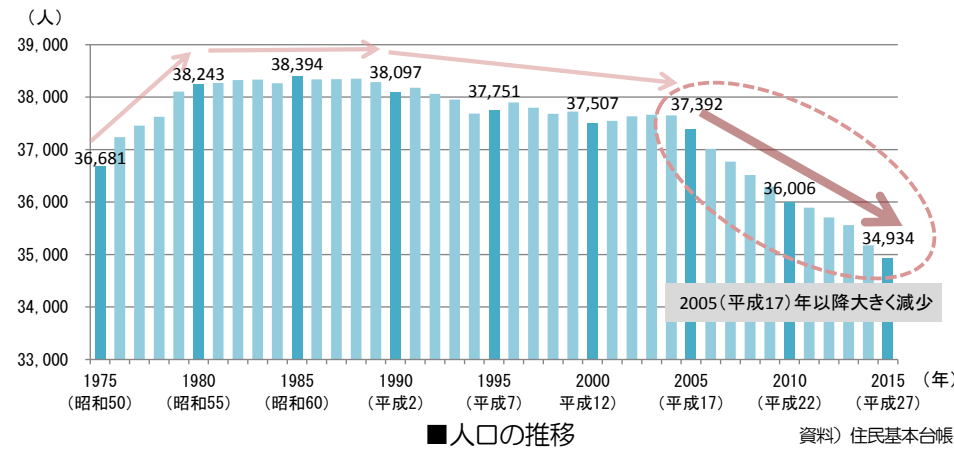


## 1. 人口の現状

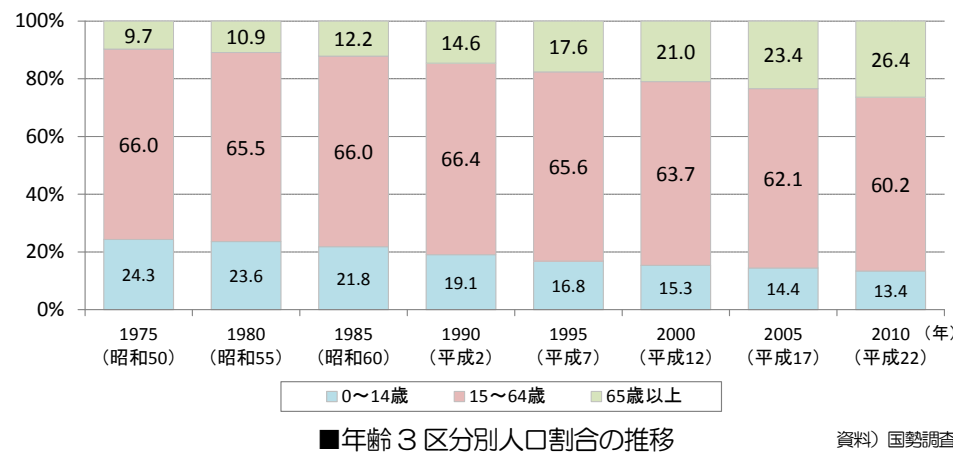
### ● 総人口

- 1985（昭和60）年の38,394人をピークに減少し、2015（平成27）年には**34,934人**に



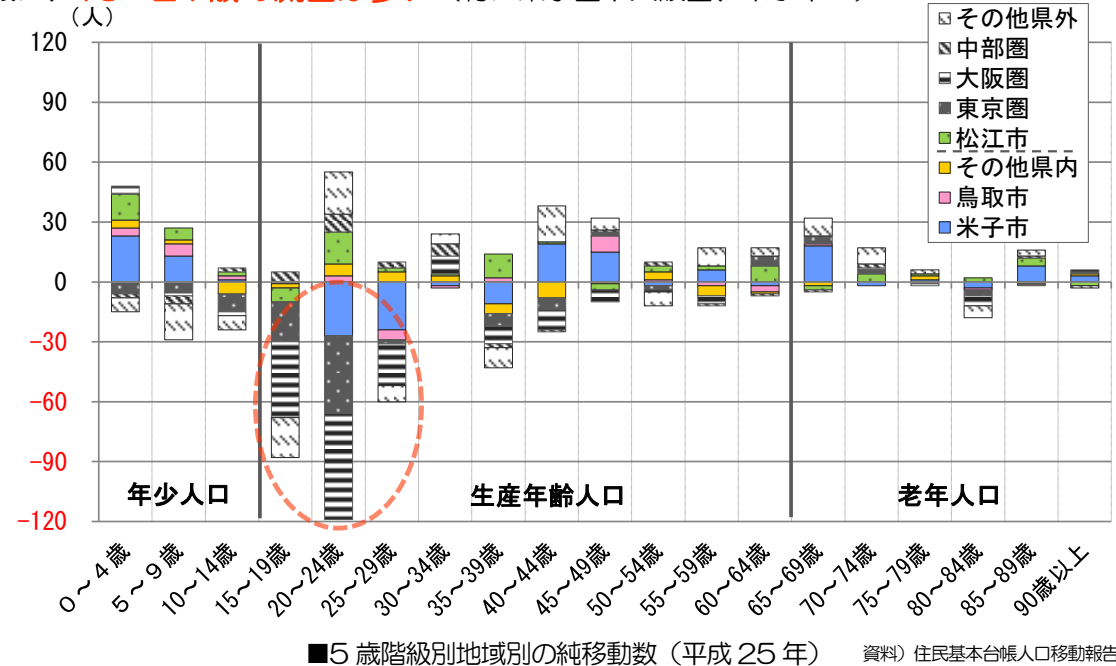
### ● 少子高齢化

- 総人口に占める14歳以下の割合は1995（平成7）年に16.8%から2010（平成22）年に**13.4%に減少**
- 総人口に占める65歳以上の割合は1995（平成7）年に17.6%から2010（平成22）年に**26.4%に増加**



### ● 若者の流出

- 進学や就職を機に、**15~24歳の流出が多い**（特に東京圏や大阪圏、米子市へ）



## 2. 将来展望

### ● 国における将来人口推計

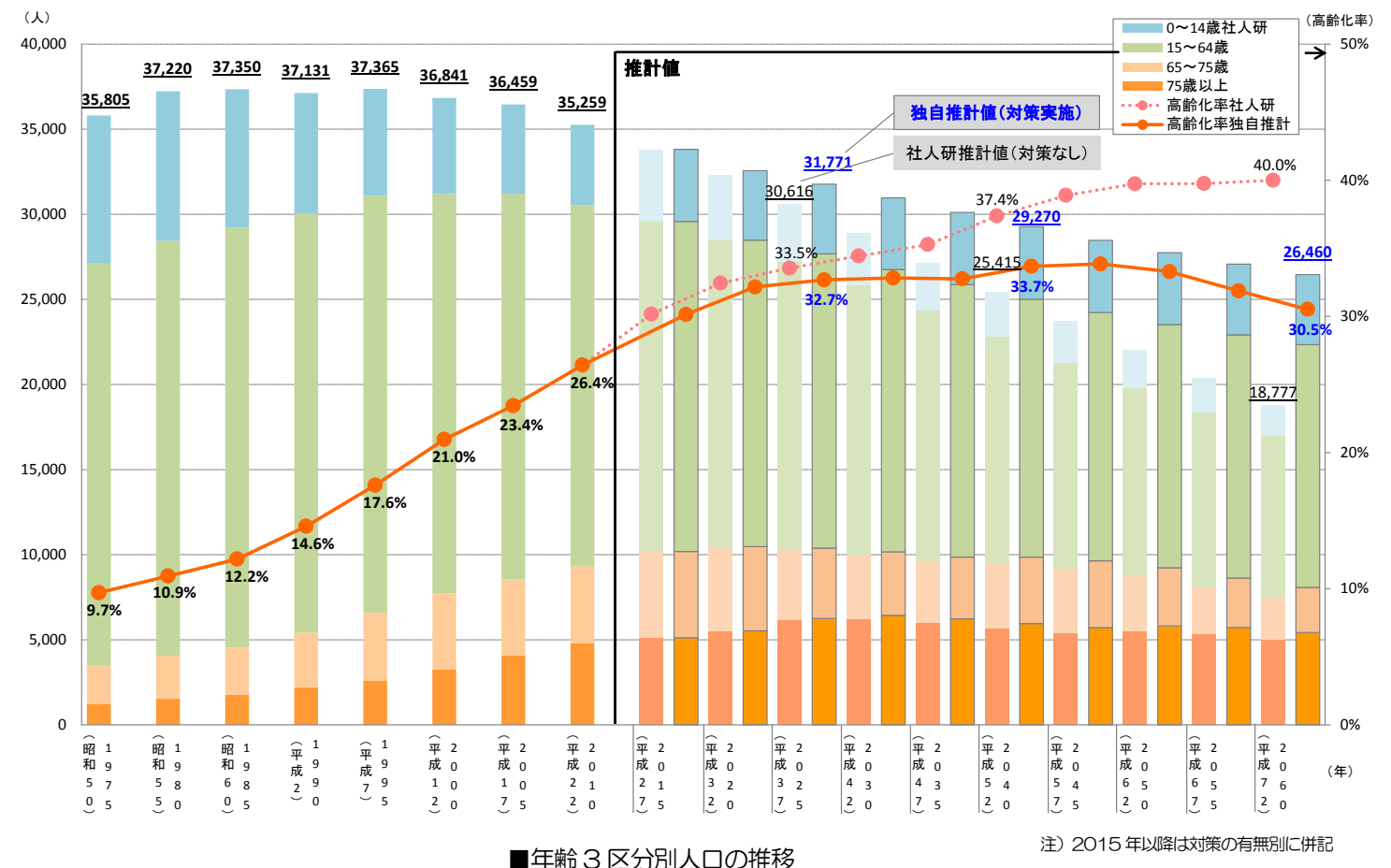
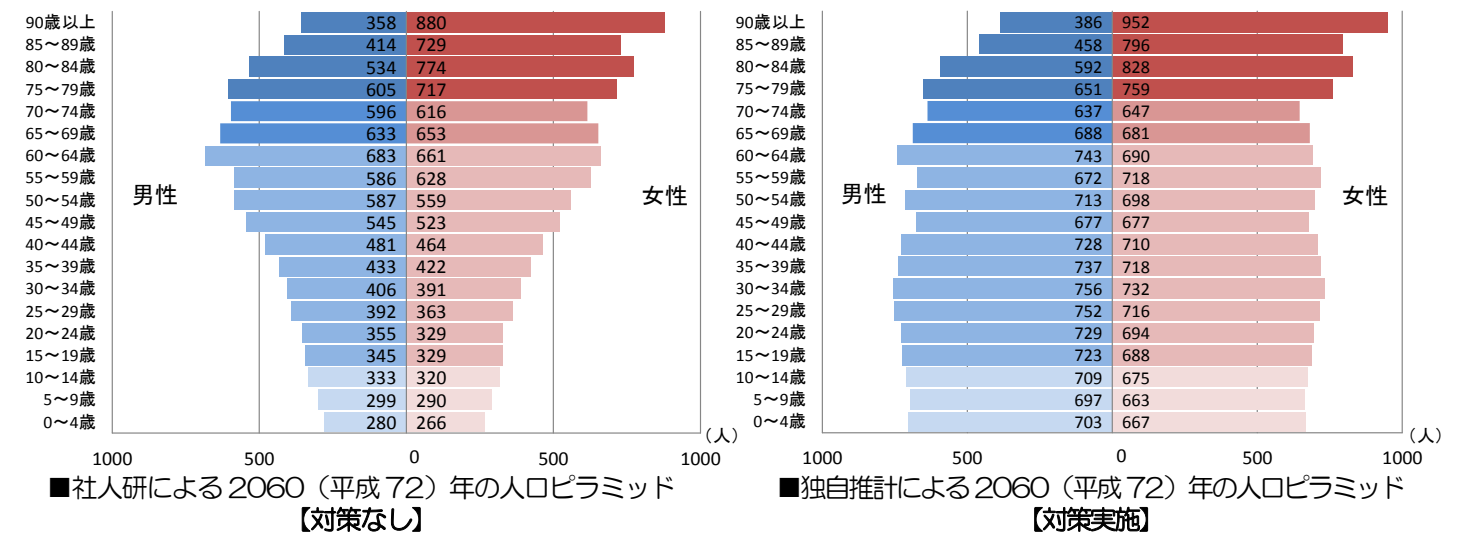
国立社会保障・人口問題研究所推計（社人研）の推計によれば、2060（平成72）年には**18,777人**にまで減少

### ● 人口減少問題の克服

人口減少に歯止めをかけるためには、2つの視点に基づいた対策が必要

- ① **結婚から妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援を実施し、合計特殊出生率を向上させる**  
（2013（平成25）年の1.55から、徐々に向上させ、2030（平成42）年以降2.07を維持）
- ② **社会増減をプラスに転換させる**  
人口流出に歯止めをかけ、IJUターン者を増加させる

上記対策を講じることで、2060（平成72）年に**26,500人**の人口を目標とします。



注) 2015年以降は対策の有無別に併記

# 境港市総合戦略【概要版】

重要課題である人口減少と地域経済縮小を克服し、魅力と活気にあふれ、心豊かに安心して暮らせる「境港市」を構築していくことを目的とし、人口、経済、地域社会の課題に一体的・持続的に取り組んでいくために「境港市総合戦略」を策定します。

## ● 対象期間

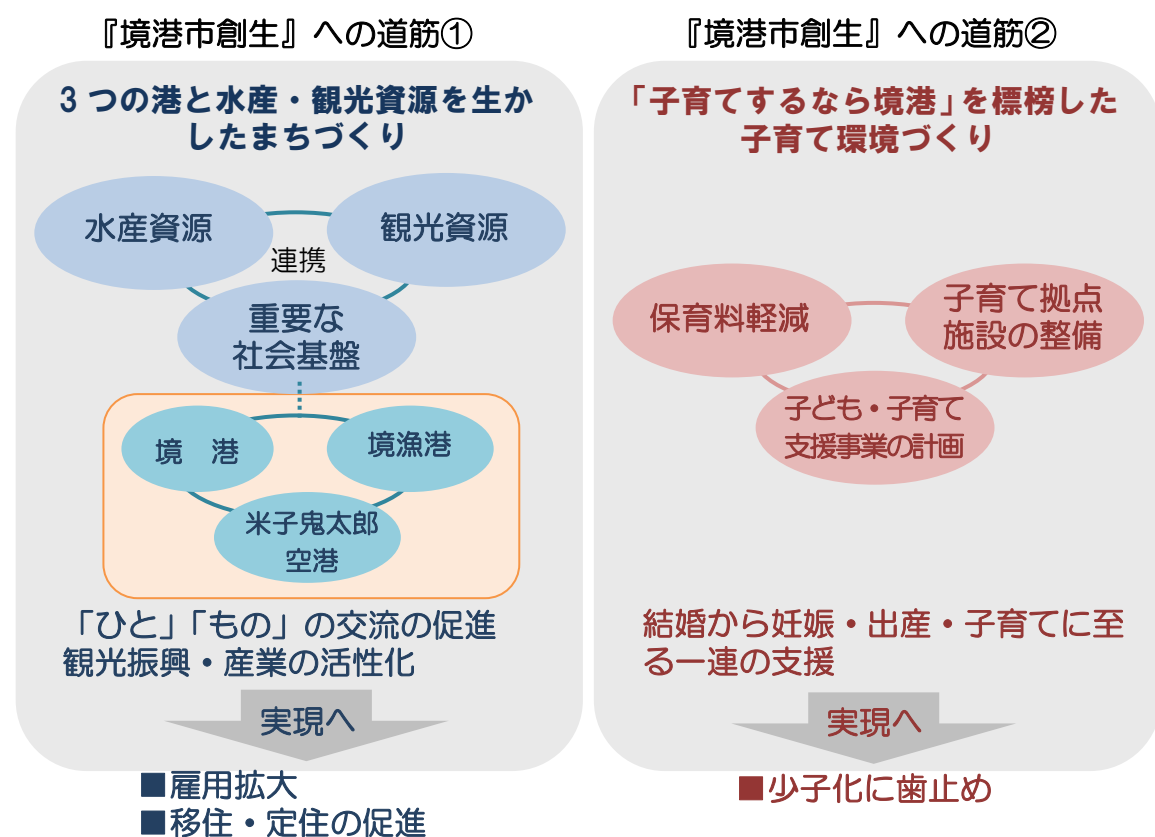
2015年度（平成27年度）～2019年度（平成31年度）

## ● 2つの道筋と2つの視点

人口減少の克服と本市の創生の実現のため、本市の持つ特性・魅力を生かした2つの道筋と2つの視点に立った「総合戦略」を策定し、施策を展開していきます。

なお、施策の展開にあたっては、本市の魅力のPRを図るため、人的ネットワーク等を活用し、さらなる情報発信の強化に努めていきます。

### ■ 2つの道筋



### ■ 2つの視点

- ・市民参画による『協働と改革』
- ・中海・宍道湖・大山圏域が一体的な発展を目指す『連携と共栄』

## ● 基本目標

人口減少問題に取り組むとともに、本市の多様な資源や特色を生かしたまちづくりを進め、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すために、2つの道筋を「基本目標」として設定します。

あわせて、古くから地理的・歴史的つながりがある中海・宍道湖・大山圏域の5市7町村が連携し、人口減少に対する圏域でのダム効果を発揮するため、産業振興や観光振興の取組についての「圏域の目標」も設定します。

### 基本目標 3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり

本市の有する重要港湾『境港(さかいこう)』、特定第三種漁港『境漁港』、国際空港『米子鬼太郎空港』という重要な社会基盤である3つの「港」、日本有数の水揚量を誇る水産資源、水木しげるロードをはじめとした観光資源を生かしたまちづくりを進め、本市の魅力を高めることにより、『ひと』『もの』の交流を一層促進し、観光の振興と産業の活性化による『しごと』の創出を図り、雇用の拡大、定住促進を目指します。

- 目標**
- 雇用創出数:5年間で200人
  - 水木しげるロード年間観光入込客数:年間200万人以上の維持
  - 移住・定住者数:5年間で200人

### 基本目標② 「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくり

本市の合計特殊出生率は、全国平均を上回るものの、平成23年からは、県平均を下回っています。これまでも限られた財源の中、「子育てするなら境港」を標榜して、保育料の引き下げなど市独自の子育て支援策を実施し、少子化対策に懸命に取り組んでいますが、今後より一層、子どもを産み・育てやすい環境の整備に努め、出生率を上げ、少子化に歯止めをかけることを目指します。

- 目標**
- 保育園待機児童ゼロの維持
  - 合計特殊出生率:5年後に1.80

### 圏域の目標 県境を越えた広域連携による魅力ある圏域づくり

古くから地理的・歴史的つながりがある中海・宍道湖・大山圏域の5市7町村では、中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンを策定し広域的な取組を行っています。まち・ひと・しごと創生の取組についても、産業・観光振興、交通ネットワークの充実等雇用や都市部からの人の流れの創出につながる事業の圏域での一体的な取り組みは、単独で取り組む以上の効果もたらすものであり、これまでの圏域での取組を基に連携協働で取り組んでいきます。

- 目標**
- 圏域人口:5年後に65万4千人

# 基本目標① 3つの港と水産・観光資源を生かしたまちづくり

## 目標

- 雇用創出数：5年間で200人
- 水木しげるロード年間観光入込客数：年間200万人以上の維持
- 移住・定住者数：5年間で200人

### (1) 産業振興・雇用創出

①国内・外への市場拡大及び新商品開発支援【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・官民連携による境港産農水産物の付加価値向上（ブランド化）とPR強化及び販路拡大のための支援体制の充実</li> <li>・特産品を活用した商品開発への支援や開発した商品の国内外へのPR強化</li> <li>・境港に寄港するクルーズ船に対する県産食材の試食会やPRによる販路拡大の推進</li> <li>・圏域内外の企業を結び付けるビジネスマッチングの開催や圏域企業を紹介するデータベース化などによる支援の推進</li> <li>・DBS航路や中韓コンテナ航路を活用した販路拡大に対する支援制度の拡充</li> <li>・6次産業化に取り組む民間事業者や団体などへの支援制度の整備</li> <li>・漁業所得向上のための境港地域浜の活力再生プランの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新商品開発支援件数：20件（5年累計）</li> <li>■ 国内外への市場拡大や企業誘致・起業・創業の拡大による雇用創出数：150人（5年累計）</li> <li>■ ビジネスマッチング商談件数（圏域）：1,800件（5年累計）</li> <li>■ 漁業所得：19億円以上</li> </ul>
②農業・水産業の担い手育成・確保【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿岸、沖合漁業等への新規就業希望者への研修等を実施する事業者への支援や新規就農者の就農初期費用の助成などの新規就業環境の充実</li> <li>・国及び県との連携による就農に対する給付や住宅整備などの支援</li> <li>・荒廃農地の有効活用を図るため、農業公社による農地の流動化の促進</li> <li>・既存施設を活用した「伯州綿」に触れる機会の創出や官民連携した学び場の創出</li> <li>・種まきから収穫までを体験できる場の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規就農者：5人（5年累計）</li> <li>■ 新規漁業就業者：50人（5年累計）</li> <li>■ 「伯州綿」学習・体験事業開催数：30回（5年累計）</li> </ul>
③企業誘致及び起業・創業の拡大【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問や展示会等への参加及び企業誘致推進体制の整備</li> <li>・地域の特性・実情に応じた業種に対する企業誘致活動の推進</li> <li>・企業立地と雇用の拡大を図るため、操業時の投下固定資産総額、新規雇用人数に応じて、企業立地補助金、固定資産税減免、雇用奨励金などによる支援制度の充実</li> <li>・鳥取県西部地域（9市町村）で、新設又は増設により、雇用を拡大した企業の支援や企業立地フェアに出展するなど広域での取組の推進</li> <li>・竹内南地区貨客船ターミナル整備との相乗効果により、物流・人流の拡大に資する企業・施設の誘致活動の促進</li> <li>・県と連携し、創業時の初期投資の補助や創業貸付の利子補給などの支援体制の整備</li> <li>・地域ファンドや官民ファンドなど金融支援体制についての検討</li> <li>・小規模事業者向け融資の利子補給など支援体制の整備</li> <li>・国産材、県産材の消費量増加を図るため、施設整備に対する支援</li> <li>・企業誘致推進などの委員会委員の民間委嘱や協定締結などの官民連携強化の促進</li> <li>・鳥取県西部地域での「創業サポートセンター」の設立や市相談窓口設置など創業に向けた支援体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 誘致企業数：15社（5年累計）</li> <li>■ 起業・創業社数：10社（5年累計）</li> <li>■ 起業・創業支援件数（相談対応含む）：100社（5年累計）</li> <li>■ 国内外への市場拡大や企業誘致・起業・創業の拡大による雇用創出数：150人（5年累計）</li> </ul>

### (2) 観光の振興

①観光地の魅力向上による滞在型観光の推進【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的な知名度を誇る「水木しげるロード」の車道の一方通行化、歩道拡張、妖怪ブロンズ像の再配置などの大規模リニューアルの実施</li> <li>・水木しげるロードリニューアルに合わせた、官民連携による街並み整備の促進</li> <li>・ホテルの開業に合わせ、水木しげるロードのライトアップなど夜間の賑わい創出及び滞在時間延長の取組の推進</li> <li>・観光客の満足度の向上を図るため、水木しげる作品のキャラクターの着ぐるみによるおもてなしの充実</li> <li>・圏域内観光情報アプリの活用などの観光ICT化の推進</li> <li>・水木しげるロードと他の観光施設を結ぶ無料シャトルバスの運行などの二次交通の充実</li> <li>・水産まつり、マグロ感謝祭、カニ感謝祭、境漁港見学ツアー等のイベントの充実など、水産資源を生かした観光の推進</li> <li>・ブルー・ツーリズム（漁村滞在型余暇活動）などを推進する体験メニューの造成と受け入れ体制の整備</li> <li>・既存観光施設のブラッシュアップ（磨きあげ）と名所や旧跡などの新たな観光資源の掘り起こしによる観光地の魅力向上</li> <li>・「みなと祭」や「境港妖怪ジャズフェスティバル」などのにぎわい創出イベント開催支援による誘客の促進</li> <li>・県、関係機関と連携した教育旅行の誘致やロケ地誘致の推進</li> <li>・隠れた良いものの掘り起こしから販売促進を行う「いいものマルシェ」の開催支援</li> <li>・「日本版DMO（着地型観光のプラットフォーム組織）」設立の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水木しげるロード年間観光入込客数：年間200万人以上を維持</li> <li>■ 水木しげる記念館入館者数：年間20万人以上を維持</li> <li>■ 水産観光イベント来場者数：5.5万人</li> <li>■ 山陰いいものマルシェ来場者数：15万人（3年累計）</li> </ul>

②外国人観光客の誘客促進【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県や圏域4市などとの連携による大型クルーズ客船の寄港促進</li> <li>・クルーズ客船、国際チャーター便等の外国人観光客に対するお出迎え・お見送りイベント、交流イベントなどの実施によるおもてなしの向上</li> <li>・クレジットカード・電子マネー対応、免税店の開設、公衆無線LANの整備、多言語対応ガイドマップの作成などの外国人観光客受入体制の整備</li> <li>・Facebook、TwitterなどのSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）やYouTubeを活用した情報発信の充実</li> <li>・外国語会話ができる人材育成のための教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ クルーズ客船寄港年間外国人観光客数：3万人</li> <li>■ 国際線利用者数（アジアナ航空・チャーター便）：5万人</li> <li>■ DBSクルーズフェリー乗客数（境港～東海間）：2万人</li> </ul>
③米子鬼太郎空港・DBSクルーズフェリーの利用促進【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県や関係機関と連携して、グループ旅行支援、DBSクルーズフェリー・アジアナ航空を利用した周遊型旅行商品の造成支援などの充実</li> <li>・県や中海・宍道湖・大山圏域との連携による環日本海定期貨客船航路の安定化、利用促進への支援</li> <li>・県や関係機関と連携した米子鬼太郎空港活性化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 年間空港利用者数（ANA便）：60万人</li> <li>■ 国際線利用者数（アジアナ航空・チャーター便）：5万人</li> <li>■ DBSクルーズフェリー乗客数（境港～東海間）：2万人</li> </ul>

### (3) 社会基盤の整備

- ①竹内南地区の国際貨客船ターミナル整備（国土交通省・境港管理組合実施事業）
- ②境漁港の高度衛生管理型市場に向けた整備（県実施事業）
- ③みなとを核とした官民連携による賑わいづくり
- ④米子市～境港間の高規格道路の早期実現
- ⑤境港出雲道路の早期実現

③みなとを核とした官民連携による賑わいづくり【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹内南地区貨客船ターミナル整備事業に合わせて、県勢の振興とターミナル周辺の賑わいづくりを図るため、県と協働で水族館設置の検討</li> <li>・夢みなとタワー周辺地区の魅力向上への取組の検討</li> <li>・物流拠点「境港」の利便性向上や航路ネットワークの充実を図るため、国内RORO船の定期航路化の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水族館設置に向けての基本構想策定：1件</li> <li>■ 国内RORO船定期航路就航：1航路</li> </ul>

### (4) 移住・定住の促進・情報発信の充実

①移住・定住の促進・情報発信の充実【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月5,000円程度で100坪相当の土地が51年間賃借できる夕日ヶ丘地区の定期借地権制度を活用した移住・定住の促進</li> <li>・大型防災ヘリコプター配備など自衛隊美保基地のさらなる輸送機能強化への国への働きかけ</li> <li>・鳥取大学の水産学科や国・県の補助機関、研究施設などの設置に対する働きかけ</li> <li>・近隣市と共同での新卒大学生等を対象にした就職情報サイトの運営、就職フェアの開催など地元就職の支援体制の整備</li> <li>・地域おこし協力隊制度を活用した、地域の特産「伯州綿」事業の充実、移住・定住の推進</li> <li>・産・官・学が連携し、インターンシップ実施、学生と企業のマッチング体制の充実など若者の定住施策を推進</li> <li>・「全国移住ナビ」など、インターネットを活用した移住希望者への情報発信の充実</li> <li>・本市への愛着を醸成し、将来のUターンにつなげるため、子どもを対象とした郷土愛づくりへの取組の推進</li> <li>・鳥取県西部地域で、都市部からの移住体験ツアーや誘致パンフレット作成など広域での移住施策の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 移住・定住者数：200人（5年累計）</li> <li>■ 市外在住者の定期借権契約件数：50件（5年累計）</li> <li>■ 地域おこし協力隊員数：21人（5年累計）</li> </ul>



## 基本目標② 「子育てするなら境港」を標榜した子育て環境づくり

目標 ■保育園待機児童ゼロの維持  
■合計特殊出生率：5年後に1.80

### (1) 少子化対策・子育て支援

①出会いの場の創出【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>結婚希望者への婚活支援として、婚活コーディネーター設置の検討など相談、支援体制の充実</li> <li>未婚、晩婚化の解消を図るため、中海・宍道湖・大山圏域（5市6町1村）で一体となり、地域の特色を生かした交流会などの婚活支援事業を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間婚姻件数：450件</li> <li>婚活支援事業参加者数(圏域参加者数)：1,200人（5年累計）</li> </ul>
②安心な妊娠出産環境・子育て支援の充実【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>特定不妊治療と人工授精に要する経費の助成</li> <li>妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援の充実</li> <li>県と連携し、第3子以降の保育料の無料化など保護者負担の軽減</li> <li>県と連携し、医療費の助成対象を拡充（15歳⇒18歳まで引き上げ）</li> <li>配偶者のない父または母が養育している児童・生徒の小・中学校入学に際し、支度金を助成</li> <li>保育士の就労環境の改善を図るため、私立保育園の保育士を増員するための費用を助成</li> <li>病気又はその回復期にあり、集団保育が困難な児童の専用施設での一時保育の実施</li> <li>保育環境の改善のため、こども支援センターの設備整備等の実施</li> <li>児童クラブ事業の実施及び受入対象児童の拡充（小学校4～6年生児童の受入）</li> <li>赤ちゃん教室、ブックスタート、親子関係づくり・地域交流促進のための学習会、講演会の開催など親子の関わりやコミュニケーション力向上に向けた事業の充実</li> <li>地元食材、人材を活用した食育事業の実施</li> <li>高齢者を活用するなど地域での子育て支援施策の充実</li> <li>地域と学校が連携した地域の歴史・風土などを学ぶ「ふるさと学習」の充実</li> <li>小学校、保育園、幼稚園の連携体制の充実</li> <li>外遊び環境の充実のための遊具整備、除草回数増加などの公園整備の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合計特殊出生率：1.80</li> <li>不妊治療後の母子手帳交付者数：20人</li> <li>保育園待機児童ゼロの維持</li> <li>児童クラブ受入児童の拡大（小学校4～6年生の受入）：全7校区実施</li> <li>アンケート調査等による公園利用者満足度：70%以上</li> </ul>

### (2) 女性活躍の推進、ワークライフバランスの啓発・支援

①ワークライフバランスの啓発・支援【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所を対象にしたセミナーの開催など、ワークライフバランスや男女均等な能力活用についての周知・啓発の実施</li> <li>男女がともに働きやすい就労環境実現に向けた啓発事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「鳥取県男女共同参画推進企業」認定割合：8.0%</li> </ul>
②女性の就労環境充実のための家庭介護負担の軽減【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、医療・介護の連携した地域包括ケアシステムの構築</li> <li>介護（認知症）予防教室の開催、健康診断の受診勧奨など健康寿命の延伸に向けた取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>75歳以上人口に占める要介護認定者の割合抑制：38.0%（見込値）⇒37.0%</li> <li>高齢者地域見守り体制の整備：7地区</li> </ul>

## 圏域の目標 県境を越えた広域連携による魅力ある圏域づくり

目標 ■圏域人口：5年後に65万4千人

### (1) 中海・宍道湖・大山圏域市長会

①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成【具体的施策】	2019年度成果目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>北東アジアに向けたゲートウェイ機能のさらなる活用</li> <li>圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出</li> <li>圏域の特長を活かした企業や研究機関の誘致</li> <li>インバウンド観光の推進</li> <li>国内観光の推進</li> <li>地域資源の発掘</li> <li>圏域への移住・定住の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域への観光入込客数：3,870万人</li> <li>圏域での外国人宿泊数：11.2万人</li> <li>山陰いいものマルシェ来場者数：15万人（3年累計）</li> <li>ビジネスマッチング商談件数：1,800件（5年累計）</li> </ul>
②交通ネットワークの充実【具体的施策】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>5市を2つの湖を介して結ぶ「8の字ルート」の早期完成</li> </ul>	
③住みたくなる圏域づくり【具体的施策】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境の保全と活用</li> </ul>	
④住民サービスの向上【具体的施策】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>「公共交通の利便性向上」、「人材育成の共同化」、「公共施設の共同利用」の推進</li> </ul>	